教師の負担を軽減し、ゆき届いた教育を！

－杉並区の実践例を岡野長寿市議が視察・報告－

尾道民報

日本共産党
市議会議員団
週刊議会報告
【発　行】
岡野長寿
（0845-22-2596）
三浦とおる
（0848-48-5044）

10月23日～24日と、尾道市議会文教委員会は、杉並区ではクラブ活動の外部指導員配置制度を、荒川区ではキャリア教育の実践例を視察しました。岡野市議が委員として参加しました。

「学校支援課」というネーミングは珍しい！

杉並区は「教員数の減少」と「教員の変化、多忙化」の状況を踏まえ、部活動の活性化と教員の負担軽減を図るため、外部の力を活用した部活動支援の取り組みを推進しています。

教師をAタイプ、Bタイプ、Cタイプに分類、部活動が得意なAタイプには支援を行わないが、競技・指導経験のないCタイプには専門コーチによる指導を、中間のBタイプにはボランティア人材を活用しています。専門コーチを活用する部活動活性化事業は年間予算約3，000万円を投入、事業者やNPO法人に委託し、週2回専門コーチによる部活動指導を実施します（1時間5，000円）。23中学校の17校、146部活の中で36部活で事業を活用しています。

Bタイプの外部指導員の配置は年間予算約1，800万円、（1日2，200円）、1校あたり年間のべ360人。

お礼のあいさつをする岡野長寿市議

スポーツ科学に基づく研修を重視！

印象に残ったのは、外部指導員が、スポーツ科学に基づいて基礎・基本の指導を行える制度的保障をつくっていることです。

杉並区は都心部ゆえ人材を確保しやすいという面はありますが、今後尾道市でも、子ども達のまっすぐな成長を保障するために取り入れなければならない制度だと感じました。経験のない教師による無理な指導によるトラブル・弊害もなくなるはずです。

みうら君の生活一口メモ

子どもの自殺過去最高。どうすればいいの？

皆さんお元気ですか　先週のお題を振り返ってみましょう。「子どもの自殺が過去最高になりました。心配でなりません」でしたね。特に夏休み明け等の長期の休み明けに「自殺」をする子ども達。何か大きな原因がありそうな気もしますが、実際の所、どうすればよいのか？皆さんと考えてみました。

まず、自殺の要因をみると、家庭の問題が41人、親などの叱責が30人、進路の悩みが28人、いじめが9人などとなっていますが、最も多かったのは不明という回答で194人、全体の6割近くになっていました。なぜ、子ども達は死を選ぶのでしょうか？

心理学の専門家はこの現象を次の様に分析しています。

「少子高齢化の進行と共に多くの大人が子どもに過度の期待と要求を持って接している。これでは、子ども達は大人の期待と要求に押しつぶされてしまう」と考えているようです。

子ども達は、家庭や学校の期待に応えようと日々頑張って生活しています。親の期待や学校の要求に応えられないと、次第に自己肯定感が低下していき、生き方に自信が持てなくなって死を選ぶとも言われています。

子ども達が自分に自信を持って生きていくためには、過度の期待をしないで子どものありのままを受け止めることが大切なようです。

「みんな違ってみんないい」を大人がしっかりと持って、共に成長していくことを目指していきましょう。

キャリア教育って何？

キャリア教育実践の荒川区立中学校

「つめこみ」「暗記」では通用しない・・これからの教育

「キャリア教育」って「職場体験学習のことかなー」と漠然と考えていると大違いでした。

一言でいうと、「キャリア教育」とは社会人になったとき求められる資質・能力を身につける教育です。①人間関係形成・社会形成能力②自己理解・自己管理能力③課題対応能力④キャリアプランニング能力です。

従来は、知識詰め込み型教育＝指導教員が知識や考え方を教えたり、伝えたりすることに主眼が置かれていましたが、そこからバージョンアップした教育かなと感じました。

大事なことは知っているかどうかではなく、課題を抽出し、課題解決のため、情報を収集したり、集団的に議論して、解決の道筋を見いだす能力なのだと言ったところでしょうか。

アクティブラーニング（能動的学び）と同義語のような概念ですね。本物の教育が進行中です。そのための環境整備を我々が担わなければならないと感じました。